

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 サシーム パウデル

	主査	教授	佐藤	典宏
審査担当者	副査	教授	篠原	信雄
	副査	准教授	神山	俊哉
	副査	教授	玉腰	暁子

学 位 論 文 題 名

Development of safe and efficient training system for laparoscopic inguinal hernia repair surgery

(安全かつ効率的な腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術のトレーニングシステムの構築)

本研究は、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP 法) の初心者向けのトレーニングシステムを開発し、その教育効果を検証した研究である。本研究の Phase 1 で手術ビデオを用いて技能評価が可能な「TAPP チェックリスト」を開発し、その信頼性と妥当性を示した。Phase 2 ではこの評価表に基づいて TAPP 法教育システムの構築を行った。Phase 3 では多施設で前向き無作為化比較試験によって、本システムの教育効果を証明した。

学位論文内容の口頭発表後、副査の神山准教授より、①TAPP チェックリストの開発に関わったエキスパート医師の経験について、②システムを利用する上での評価者への負担について、③複雑な手術の場合のチェックリストの実際と、指導医の負担について質問があった。次に、副査の玉腰教授から、①研究終了後の教育システムの導入状態について、②Phase 2 と Phase 3 の論文の進捗状況についての質問があった。続いて、主査の佐藤教授から、①チェックリストの簡略化の可能性について、②現場の指導者の負担について、③ビデオ評価者と現場の指導医との評価のばらつきについての質問があった。最後に、副査の篠原教授から、①システムを世界的に普及させるための教材の英語化の予定について、②今回の教育システムの関連病院以外での実施状況について質問があった。

いずれの研究内容に対する質問に対しても、申請者はその主旨を的確に理解し、文献的考察を混じえて適切に回答した。また、今後の課題や展望についても、逐次的に解決すべき問題を明確に挙げ、研究結果の応用について自らの考えを示すことができた。

本研究で開発された教育システムは、初心者の腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の技能向上に関して有効性が示され、手術の質の向上に資する可能性が示された。

審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を授与されるのに十分な資格を有すると判定した。